

曲 目 紹 介

◇モーツァルト：フランスの歌「ああ、お母さん、あなたに申しませう」による 12 の変奏曲 K.265

いわゆる「キラキラ星変奏曲」のこと。パリで流行していたシャンソンをテーマに 1781 年から 82 年にかけてウィーンで作曲された。この頃モーツァルトは 5 オクターヴ、61 鍵で膝ペダルを持つヴァルター・フリーゲルを手に入れ、生徒の教材のために多くの変奏曲を書き、やがてウィーンの音楽界用に次々とピアノ協奏曲を作り始める。

◇モーツァルト：ソナタへ長調 K.497

モーツァルトが作曲した 4 手のための連弾ソナタは全部で 5 曲あるが、1786 年にウィーンで作曲された K.497 は連弾音楽史上に残る傑作といわれている。青春期のソナタ 3 曲は姉のナンネルと演奏するために書かれたが、12 年ぶりの 4 手ソナタ K.497 は自分の愛弟子のフランチェスカという優れた共演者を得たことによって、1 台のピアノで実現できるピアノ協奏曲とも言える傑出した芸術作品が生まれた。交響曲的な構成、室内楽的な旋律の豊かな組み合わせ、対位法の巧みな使用など様々な工夫が凝らされている。

◇シューベルト：楽興の時 D 780-2

「楽興の時」とは音楽的瞬間という意のフランス語。D 780 はシューベルトの 2 つの連作歌曲集「冬の旅」と「白鳥の歌」のはざまに生み出された、いわゆる歌詞のない連作歌曲とみなすこともできる。ひとつひとつのピアノ曲がそれぞれ抒情的な小品集。第 2 曲はアンダンティーノ 優しく揺れ動く旋律が突然魂の叫びに変化し、やがて静謐な終結へと向かう。

◇シューベルト：創作主題による変奏曲 D 813

モーツァルトの死後ピアノ連弾をゆるぎない芸術に高めたのはピアノ協奏曲を作らず数多くの連弾作品を残したシューベルトだろう。D 813 はシューベルト 28 歳の 1824 年、エステルハージ家の音楽教師として滞在中のハンガリーで完成された。主題と 8 つの変奏からなり、第 5 変奏のほかは、全て変イ長調。

◇シューベルト：幻想曲へ短調 D 940

1828 年、この世における最後の年に書かれたこの傑作はかつての教え子だったエステルハージ伯爵令嬢カロリーネに献呈され、死の翌年出版された。自由なソナタ形式による第 4 楽章から構成され、随所にきわめて巧妙な対位法的技法が使われている。